

言葉で伝わる思いやり

広島県 宮原中学校 2年 村上 愛果

「ありがとうございます。」

そのひとことが今の私を笑顔にしてくれます。

ある夏の日、部活が終わって私はかげろうが揺れる長い道を一人で歩いていました。それからどんどん歩いていくと、一人のおじいさんとすれ違いました。そのおじいさんには、見覚えがありました。なぜなら、いつもお昼に一人で私の通っている中学校の近くをウォーキングしているからです。おじいさんは足が悪いのか、いつもゆっくりと歩いています。

その日は日差しが強く、テレビでニュースを見れば、「熱中症」という言葉がたくさん見られました。そのため、おじいさんの手には日傘が、半袖姿で首にはタオルが掛けてありました。

私はおじいさんの横を通るとき、

「暑いですね。」

と声をかけました。するとおじいさんは、

「はい。」

と目を見て返事をしてくれました。それだけで私はうれしくなりました。すると後ろから、

「何年生ですか。」

と聞こえました。私は後ろをふり返って学年を言いました。そして、私の口からは、

「熱中症にお気をつけてください。」

という言葉が出ていました。それに対しておじいさんは、きちんと目を見てゆっくりとおじぎをして、私を見てくれました。そして、

「どうもありがとうございます。」

と温かい言葉をかけてくれました。私はそのとき、パーッと心が晴れたような気がしました。本当にその言葉でおじいさんが喜んでくれていたからです。

私は、「親切」というものは、「してもらうから自分もまねをしてみる」のではなく、「自分からする」ということから始まるものだと思います。親切をすることは、相手の人も自分も笑顔にするということです。親切をされていやになる人はいないと思います。

私はこの経験で、人を思いやるということがどれだけ大切なのか、とても実感しました。まずは、「こんにちは」や「おはようございます」のように、あいさつをすることからいいと思います。その言葉で笑顔になれる人が必ずいます。親切の輪がこれからもたくさん広がっていくとよいと思います。